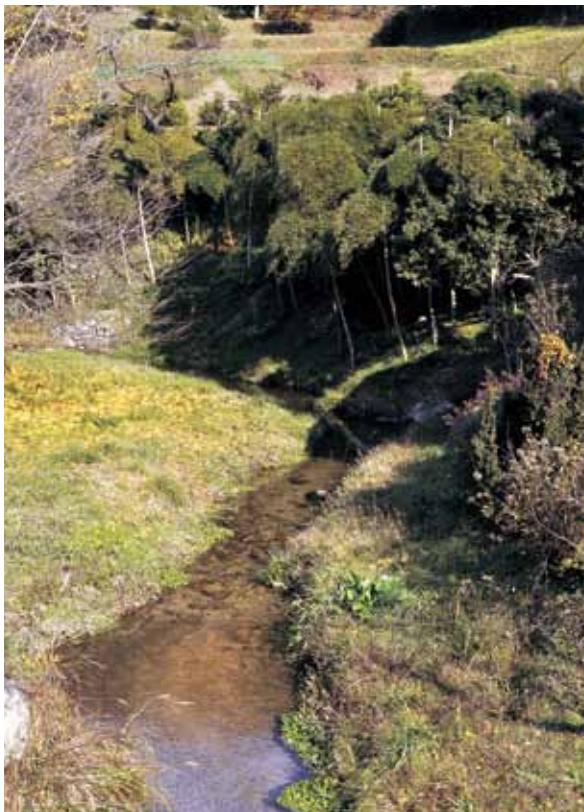


【鈍川】 神子之森・古屋之谷



⑥〇玉川

「玉川」という川は、神子之森、奈良ノ木から発した川で、鈍川温泉との分かれ道のところで木地・鈍川渓谷から流れてくる木地川と合流する。その後、蒼社川と落合で合流、蒼社川本流となる。「玉川」は、玉川町の川の中でもっともゆるやかでのどかな川。他の川は渓谷を形成し、蒼社川は玉川ダムに流れ込むほどの水量がある。しかし、この「玉川」は静かにゆるやかに流れている。最もここに休まる里山の川だ。

鴨部村・鈍川村・龍岡村・九和村が合併し、玉川村という名前になつたのは、この辺りに伊勢神宮の所領（玉川の御厨／たまがわのみくりや）があつたことに由来していると言う。御厨とは日本全国の良質の穀物産地を選んで伊勢神宮の料地とされたもの。



⑥〇あなぐらさん



⑥〇孝行者のこまさん

神子之森に、親孝行な「こまさん」のお話が伝わっている。

貧しい家に生まれたこまさんは、短気で頑固な父親の行状にもめげず一生懸命働き、家族を助けてなんとか生活をしていた。そんなある日、その孝行ぶりを知った殿様から褒め状をいただいた。それ以来、父親もこまさんに感謝するようになり、家も栄えたというお話。こまさんは実在した人物で、その石碑が残されている。

あなぐらさんは、村人の願いごとを聞いていろいろなものを貸してくれる。お膳、座布団などあらゆるものを持ち下さつた。ある日うつかりものの嫁が法事のため20個借りたお茶碗を1個割ってしまった。それ以来、何も貸してくれなくなり、忘れ去られていた。その後おばあさんが息子が痛めた足の治療をお願いした際に、あなぐらさんに頼まれ、家に持ち帰りお祀りすることになった。息子の足は治り、今もその家にあなぐらさんが祀られている。